

理解度&釣れる度100%

丸

マルキュー

優良 餌本



へらエサ パワーグッズ 2014

実寸大
エサ付け
&
オモリ
解説付き



真実書

Contents

- 02 両ダンゴの浅ダナ釣り
- 06 両ダンゴのチョーテン釣り
- 10 「ヒゲトロ」セットの浅ダナ釣り
- 14 「ヒゲトロ」セットのチョーテン釣り
- 18 とろダンゴの底釣り

HERA BAIT POWER BOOK

どこでも通用する王道ブレンド



+ 水
100cc

エサへの反応が悪いとき

エサへの反応がイマイチで、ウキの動きが少ないとき、いわゆる渋い状況の場合は、エサを軽くし、また若干バラケ性を促進する。そのときは、「パウダーベイトヘラ」を100ccに減らし、代わりに「軽麩」100ccを加える。

- ガッテン 200cc+
- パウダーベイトヘラ 100cc+
- 軽麩 100cc+水100cc



●作り方

「ガッテン」と「パウダーベイトヘラ」に水を注ぎ、全体に水が行き渡るようにかき混ぜる。まずはこのまま打ってみて、エサが持たないようならボウルの縁にこするように10回ほど練る。これを繰り返してウキがしっかりナジむように調整する。

●エサ付け目安



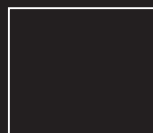
実寸大

●オモリ量目安



0.25 mm厚板オモリ
17 mm × 15 mm

～



0.25 mm厚板オモリ
17 mm × 20 mm

夏～秋の爆釣ブレンド①

両ダンゴの浅ダナ釣り

●ブレンドパターン



ガッテン
200cc

+



パウダー
ベイトヘラ
200cc

エサを重くするとき

高活性時でエサのナジミや持ちが悪いときは、エサを重くして対応する。このとき、一番即効性があるのが「ダンゴの底釣り夏」を加えること。ただし、即効性があるだけに、エサが大きく変わるので、最初は使っているエサに手水を加えて、「ダンゴの底釣り夏」を振りかける程度に止める。あきらかに重めが良いと分かったところで、「ダンゴの底釣り夏」50ccを最初からブレンドする。

●特徴

エサ持ち、エサの膨らみ、エサの重さとすべてが現代の釣りにベストマッチした王道ブレンド。エサ自体への信頼は抜群なので、エサの迷いはなく、あとは、ハリスの長さ、ウキの大きさと状況に合わせていけば良いほどの非常にすぐれた配合だ。

- ガッテン 200cc+
- パウダーベイトヘラ 100cc+
- ダンゴの底釣り夏 50cc+
- 水100cc



膨らみ重視でアピール度・強ブレンド



パウダー
+ ベイトヘラ +
100 cc



水
100cc

エサを重くするとき

ウワズリがきついたりエサのナジミが悪いときはエサの重さで対応したい。この場合は、「パウダーベイトスーパーセット」を「ダンゴの底釣り夏」に変えて重くする。その分エサがしっかりしすぎるので、「凄魅」を200ccにし、「パウダーベイト」を「バラケマツハ」に変えてバラケ性をキープする。

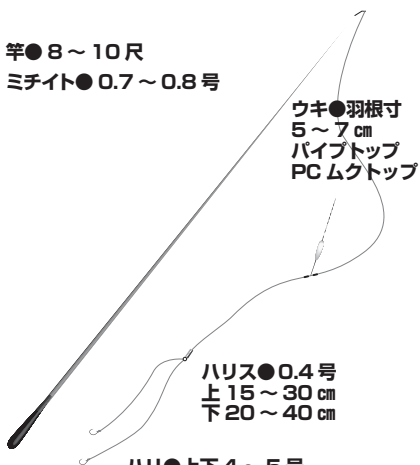
- ダンゴの底釣り夏 100cc+
- 凄魅 100cc+バラケマツハ 100cc+
- 水100cc



■タックル

竿●8～10尺
ミチイト●0.7～0.8号

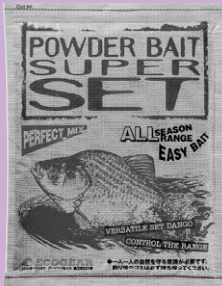
ウキ●羽根寸
5～7cm
パイプトップ
PCムクトップ



ハリ●上下4～5号

両ダンゴの浅ダナ釣り

●ブレンドパターン



パウダーベイト
スーパーセット
200cc

+



凄魅
100cc



●作り方

「パウダーベイトスーパーセット」、「凄魅」、「パウダーベイトヘラ」に水を注ぎ、全体に水が行き渡るようにかき混ぜる。しっかり吸水させてから使い始める。まずはこのまま打ってみて、エサが持たないようならボウルの縁にこするよう10回ほど練る。これを繰り返してウキがしっかりナジむように調整する。

●特徴

できあがりエサ持に不安があるかも知れないが、時間が経つとダンゴらしいネバリがでて使いやすくなる。糸を引くようなバラケ方をするので、落下中のアピール度が高いのだ、早いタイミングのアタリを積極的にねらっていきたい。

エサへの反応が悪いとき

エサへの反応が悪いときは、エサの開き方を変えてみる。ベースの「パウダーベイトスーパーセット」を「グルバラ」に変えてバラケ性を抑えるが、「パウダーベイト」を「バラケマッハ」にしてボソツ気をだすことで、開き方が変わってくる。

- グルバラ 200cc+凄魅 100cc+バラケマッハ 100cc+水100cc



魚影の多い釣り場の高活性時向き

水を入れてかき混ぜたら
吸水させるために5分程度放置



+

水
200cc

+

パウダー
ベイトヘラ
200cc



エサを軽くするとき

ナジミ際のサワリが少なくすんなりナジンでしまうときはエサを軽くしてみよう。「天々」400ccを同量の「ガッテン」に替え、さらに「パウダーベイトヘラ」を同量の「BBフラッシュ」もしくは「GTS」に替える。どちらかと言えば後者のほうが、エサの芯が軟らかく膨らむので低活性時向きと言える。

- 凄魅 400cc + ガッテン 400cc + 水 200cc + BB フラッシュ 200cc
- 凄魅 400cc + ガッテン 400cc + 水 200cc + GTS 200cc



● エサ付け目安

実寸大



● オモリ量目安

短竿

「絡み止めスイッチシンカー」
2.0g

「絡み止めスイッチシンカー」0.8g

+

0.25mm厚板オモリ
17mm × 27mm

長竿

0.25mm厚板オモリ
17mm × 33mm

+

両ダンゴのチョーチン釣り

●ブレンドパターン



凄麩
400cc

+



天々
400cc



●作り方

「凄麩」と「天々」を混ぜ合わせたら水を注ぎ、全体に水が行き渡るようにかき混ぜたら5分程度放置する。最後に「パウダーベイトヘラ」を加えて全体を掘り起こすように攪拌した後、ボウルのフチに軽くこするように練りを加え、全体にまとまり感ができれば完成。

●特徴

ネバボソタッチでエサ持ち重視のエサ。高活性時の魚影密度の濃い管理釣り場向き。落下途中の強烈なへら鮎の攻撃に耐え、「凄麩」の特性により経時変化も少なく明確なアタリをだし続ける。

エサ持ちを強化するとき

へら鮎の攻撃は激しいが、練ったエサへの反応が悪いときは練り込まずにエサ持ちを強化したい。そのときは「天々」400ccを同量の「グルバラ」に替え、重さと硬さを増してエサ持ちをよくする。さらに強化したいときは「グルバラ」200cc + 「ダンゴの底釣り夏」100ccに替える。硬過ぎると感じた場合は軽く手水を加えてもよい。

- 凄麩 400cc + グルバラ 400cc + 水200cc + パウダーベイトヘラ 200cc
- 凄麩 400cc + グルバラ 200cc + ダンゴの底釣り夏 100cc + 水200cc + パウダーベイトヘラ 200cc



最盛期の短竿・短バリスに最適

水を入れてかき混ぜたら
吸水させるために5分程度放置
さらに強めに30回程度かき混ぜる



+

水
200cc

+

パウダー
ベイトヘラ
100～200cc

※加える粉量で硬さを調整



エサへの反応が悪いとき

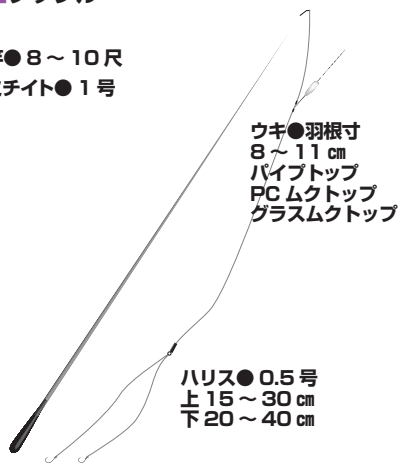
エサへの反応が悪いときは、エサを軽く、そして膨らみを増す。そのときは「天々」400ccを「GTS」200cc+「BBフラッシュ」200ccに替える。この場合作り方の手順も変え、最後に加えるのを「BBフラッシュ」とし、「パウダーベイトヘラ」は先に入れて水分を吸収させておくのがポイント。

- ガッテン 400cc+ GTS200cc+
パウダーベイトヘラ 200cc+水200cc+
BBフラッシュ 200cc



■タックル

竿●8～10尺
ミチイト●1号



ウキ●羽根寸
8～11cm
パイブトップ
PCムクトップ
グラスムクトップ

ハリス●0.5号
上 15～30cm
下 20～40cm

ハリ●上下6～7号

両ダンゴのチョーチン釣り

●ブレンドパターン



ガッテン
400cc

+



天々
400cc

●作り方

「ガッテン」と「天々」を混ぜ合わせたら水を注ぎ、全体に水が行き渡るようにかき混ぜ5分程度放置。吸水が完了してから強めに30回程度攪拌して「パウダーベイトヘラ」を加えてザックリかき混ぜたら完成。基エサはザラツキ感を残したまま維持し、1/2程度取り分けたエサを手水で微調整しながら使うのがポイント。

●特徴

ネバリがありエサ持ちの良い素材を軸にした、夏場の高活性期に適したブレンド。集魚効果を意識しなくても良いくらい魚影密度が濃く、また食い気もあってガンガンとアタってくるくらいエサへの反応が強いときに効果的。特に夏から秋にかけての短ザオ短バリスの釣りに威力を発揮。

エサ持ちを強化するとき

ナジミを良くしたいときや、ウワズリがきついときは、基本ブレンドは変えずに「粘力」を適宜加えてエサ持ちを強化する。加える量は付属の専用スプーン1杯から始めて様子を見ながら増量するが、超ヤワネバタッチが良いときは4～5杯加える場合もある。

- ガッテン 400cc+天々 400cc+
粘カスプーン 1～5杯+
水200cc+パウダー
ベイトヘラ 200cc



タナまでしっかりなじませて釣るパターン

水を入れてかき混ぜたら
吸水させるために5分程度放置
さらに20回程度かき混ぜる



+ 水 100cc +

軽麩 100cc

エサの開きを抑えるとき

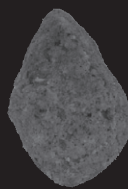
基本的にまとまりのよいブレンドであるが、より開きを抑えたいような場面では、「軽麩」を「BBフラッシュ」に替えることで、重さを変えずによりまとまり感を強調できる。上層での開きが抑えられるので、ナジませやすくなる。

- 軽麩 200cc + パウダーベイトヘラ 200cc + 水100cc + BBフラッシュ 100cc



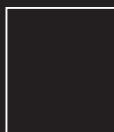
● エサ付け目安

実寸大



● オモリ量目安

0.25 mm厚板オモリ
17 mm × 15 mm



0.25 mm厚板オモリ
17 mm × 25 mm



ヒゲトロセットの浅ダナ釣り

●バラケブレンドパターン



凄麩
200cc

+

パウダーベイトヘラ
200cc



●特徴

エサ持ちの良さとまとまりに優れたブレンドで、さらに「凄麩」の特徴である膨らみがアピール力を高めている。基本的には、手水と練りによるネバリ加減でエサ持ちを調整するだけで充分釣れる。

●作り方

「凄麩」200ccと「パウダーベイトヘラ」200ccに水100ccを入れてかき混ぜる。その後5～6分放置してから20回ほどかき混ぜ、そこに「軽麩」100cc入れて良くかき混ぜる。この仕上がりが一番硬いタッチなので、あとは手水を打ちながら調整する。基本はナジミ幅が2～3目盛りでるようにする。

エサを重くするとき

魚の活性が高いときには落ち着かせるために「ダンゴの底釣り夏」をブレンドし、エサを重くする。作り方は「ダンゴの底釣り夏」100ccに水100ccを入れて一旦ドロドロにして、「凄麩」300ccで仕上げる。開き具合の微調整は「バラケマッハ」を使用する。

- ダンゴの底釣り夏 100cc+
水100cc+凄麩 300cc
(バラケマッハで開き具合を調整)



軽めでウキがよく動くパターン

水を入れて30回程度かき混ぜる



水
100cc



GTS
100cc

+

エサを開かせるとき

サワリが少なく、すんなりなじんでしまうときには、「GTS」に換えて「バラケマッハ」を使用する。エサ全体にボソッ気がでて、タナに入る前から膨らむエサになる。

- ガッテン 200cc+天々 200cc+
水100cc+バラケマッハ 100cc



エサの開きを抑えるとき

エサの開きが早いことで、上層で捕まったり、エサ持が悪いときには、「GTS」に換えて「パウダーベイトヘラ」にすることで、エサ全体のまとまりをさらに良くする。

- ガッテン 200cc+
天々 200cc+
水100cc+
パウダーベイトヘラ 100cc



ヒゲトロセットの浅ダナ釣り

●バラケブレンドパターン



ガッテン
200cc

+



天々
200cc

+

●特徴

エサ持ちと適度なバラケ性を備えたバランスが良いブレンド。基本的にはネバリができるエサをベースにして、バラけるエサで開き加減を調整している。重さのあるエサよりも軽いタイプのほうがウキの動きだしも早く、時合を作りやすいという傾向を踏まえた配合。

●作り方

「ガッテン」、「天々」各 200 cc に水 100 cc を入れてかき混ぜる。かき混ぜる回数は 30 回程度で、指先に適度のネバリを感じたら「GTS」を 100 cc 入れて再びかき混ぜて仕上げる。使い方は半分を小分けにして、手水を打ちながらトップの目盛りで 2～3 目盛りなじむように調整する。

「ヒゲトロ」の使い方（浅ダナ）

1 分包を直径 10 cm ほどの浅底のボウルに丁寧に広げる。このとき決して切らないようにする。全体を広げた後で、今度は塊がないようにほぐして水をそそぐ。まんべんなく水が浸透するようにしてそのまま放置する。それをそのままハリに引っかけて使用する。



上からタナに呼び込んで釣るパターン

水を入れてかき混ぜたら
吸水させるために5分程度放置



水
100cc

+

+



ペレ軽
100cc

エサ持ちを強化するとき

ウキの動きが激しくナジミが不安定となり、アタリがでにくいときはエサ持ちを強化したい。そこで、硬さと比重を増すために「粒戦細粒」50ccを最後に加える。ただし夏場は経時変化が早くなるので、エサの消費量が少ない人は基エサを半分に分けたものに10～20cc加えると良い。

- 凄魅 200cc+
- 天々 200cc+
- 水 100cc+
- ペレ軽 100cc+
- 粒戦細粒 50cc

(または、半分に分けたものに
粒戦細粒 10～20ccを加える)



開きを良くするとき

ナジんでからのタナでのサワリが少なく、ウキの戻りが悪い場合は開きを良くしよう。「天々」200ccを100ccに減らし「GTS」100ccを新たに加えることで、バラケの落下中の開きが早まりタナへの誘導力がアップする。さらにエサが軽くなることでタナでの膨らみが早く、粒子の滞留時間も長くなるため、へら鮎へのアピール力が増してアタリが増える。

- 凄魅 200cc+
- 天々 100cc+
- GTS 100cc+
- 水 100cc+
- ペレ軽 100cc



ヒゲトロセットのチョーチン釣り

●バラケブレンドパターン



凄麩
200cc



天々
200cc

●特徴

ボソタッチでなおかつ持って開くという「凄麩」の特性を生かし、バラケを追わせながらタナに呼び込み、タイミング良く開いて食わせられるブレンドパターン。高活性期の激しいアタックにも「天々」の重さとまとまり感、さらに「ペレ軽」の集魚力で安定的な食いアタリが持続する。

●作り方

「凄麩」と「天々」を混ぜ合わせたら水を注ぎ、全体に水が行き渡るようにかき混ぜたら5分程度放置する。吸水が完了したらダマを解してから「ペレ軽」を加え、全体を握り起こすように空気を含ませながら大きく攪拌し、ダマをなくして均一に混ぜり合ったら完成。

●エサ付け目安

実寸大



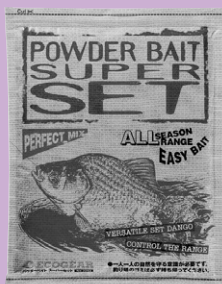
●オモリ量目安

0.25mm厚板オモリ
17mm × 27mm



0.25mm厚板オモリ
17mm × 35mm

高活性時に有効な攻撃的パターン



パウダーベイト
スーパーセット
200cc

+



パウダー
ベイトヘラ
100cc

エサ持ちを強化するとき

上層でのアタックが激しく、バラケエサをナジませられないときにエサ持ちを強化する。①重さを変えずに持たせたいときは「パウダーベイトスーパーセット」を「BBフラッシュ」に替える。②重さを加えて持たせたいときは「セットガン」と一緒に「とろスイミー」50ccを吸水させてから残りの素材を加える。（※この場合の水量は120cc）一時的にエサ持ちを強化したいときは、小分けした基エサに「粒戦細粒」を適宜加えてその変化を見るのも良い。

- ①セットガン 200cc+水100cc+
BBフラッシュ 200cc+
パウダーベイトヘラ 100cc
- ②セットガン 200cc+とろスイミー 50cc+
水120cc+
パウダーベイトスーパーセット 200cc+
パウダーベイトヘラ 100cc

エサを開かせるとき

活性が低く、ねらいのタナに呼び込めない場合は、上層のへら鮒の食いを刺激するため、ナジミ際の早い段階から開く（膨らませる）ようにするため、「パウダーベイトヘラ」を「GTS」に替える。これによりエアーを含んだふくらしたタッチに仕上がるので、エサ付けのときに強くエアーを抜き過ぎないようにするのがポイント。

- セットガン 200cc+
水100cc+
パウダーベイト
スーパーセット 200cc+
GTS100cc

ヒゲトロセットのチョーチン釣り

●バラケブレンドパターン



セットガン
200cc

+

水を入れてかき混ぜたら
吸水させるために5分程度放置



水
100cc

+

●特徴

エサ持ちが良く、なおかつ縦バラケの性格の強い「セットガン」を軸にすることで、上層のへら鮒を強力にタナに引き込むことができる攻めのブレンド。硬めに仕上げることで深ナジミさせやすく、集魚力も高まるので、主に高活性時に有効なパターンといえる。

●作り方

「セットガン」に水を加えたら4～5分放置し、粗めの麩や硬い粒子に充分吸水させてから「パウダーベイトスーパーセット」を加えて一旦ザックリとかき混ぜる。その後「パウダーベイトヘラ」を加えて底から引っくり返すように大きく攪拌し、仕上げは五指を熊手状に開いて丁寧にダマを解せば完成。

「ヒゲトロ」の使い方(チョーチン)

「ヒゲトロ」を袋から取り出し、一旦開いてから半分に千切って良くほぐす(残りの半分は袋に戻し乾燥を防ぐ)。ほぐしたものはトロ口用の受け皿に入れて水に浸け、全体に水が浸みたら指で押し、余分な水分を切る。エサ付けは小皿に入ったヒゲトロを少量引っ掛けるだけ。適量は幅4～5mm/長さ5～6cmで、多めにハリに引っ掛けてから指先でしごいて量を調整する。



極ヤワでもエサが持つ新感覚エサ



粉を入れて混ぜる



押し練りで均一にする



できあがりのエサ



繊維が掛かるようにハリ付けする



ダンゴの
底釣り冬 100cc

+

へらすイミー
100cc

エサ持ちをよくするとき、重くするとき

魚の活性が高いときには、「ヒゲトロ」を3小袋使用して、とろろの繊維量を多くすることでよりエサ持ちがよくなる。また、重さをつけたいときには「ダンゴの底釣り夏」を振りかける。

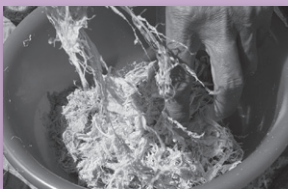
ヒゲトロ 3 分包+水200cc+ダンゴの底釣り冬 100cc+へらすイミー 100cc



とろダンゴの底釣り

●ブレンドパターン

「ヒゲトロ」をよくほぐす



引きちぎりながらほぐす



しっかり
吸水させる



ヒゲトロ
2分包

+

水
200cc

+

●特徴

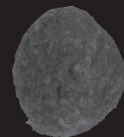
「ヒゲトロ」を使用することで、軟らかくしてもハリからエサが抜けにくく、ハリのフトコロに確実に残すことができる。ネバリは「ダンゴの底釣り冬」、集魚性と底での膨らみは「へらスイミー」が担う。とろろの繊維を残すことがポイントで、練り込みは禁物。折りたたむようにしてエサ持ちの微調整を行なう。

●作り方

「ヒゲトロ」2分包をよくほぐしたところに水 200 ccを入れ、吸水させる。そこに「ダンゴの底釣り冬」、「へらスイミー」各 100 ccを入れて軽くかき混ぜ、麩材がある程度混ざったところで、押し練りでとろろの繊維が均等になるようにする。

●エサ付け目安

実寸大



●オモリ量目安

+

「絡み止めスイッチシンカー」1.2g +
0.25 mm厚板オモリ
17 mm × 24 mm

水深
4 ~ 5m

水深
5m 以上

「絡み止めスイッチシンカー」1.6g + 0.25 mm厚板オモリ
17 mm × 31 mm

+

「凄麩」開幕!

爆釣劇の火付け役が、
今シーズンも両ダンゴで暴れだす!

浅ダナ両ダンゴのブレンドパターン

「**凄麩**」300cc+
「**ガッテン**」200cc+
水100cc

チョーチン両ダンゴのブレンドパターン

「**凄麩**」600cc+
「**天々**」200cc+
「**パウダーベイトヘラ**」
200cc+水200cc

